

「リカードウ 経済学の古典」 実業家の鋭い洞察

経済学部 石井 穰

経済学部は、1947年に関東学院が制度上大学となった直後から存続している学部の一つで、本学図書館でも経済学関連の蔵書を充実させてきた。

中でも、経済学説史・思想史関連の蔵書は目を見張るものがある。今回は経済学の歴史と絡めて「イギリス古典経済学・哲学文庫」を紹介したい。

同文庫では、18世紀末から19世紀の初め、経済学が体系的な学問として確立したころの貴重書を中心に所蔵している。

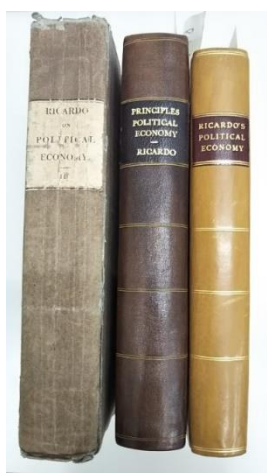
今日の経済学の出発点は、アダム・スミスに代表されるイギリス古典学派に求めることができる。

スミス後、イギリス古典学派の中心的人物となったのが、デヴィッド・リカードウであり、彼の代表作が写真にある『経済学および課税の原理』（初版1817年）である。同書はスミス『国富論』と並ぶ経済学の古典であり、随所に若くして実業家として大成したリカードウの鋭い洞察が見られる。

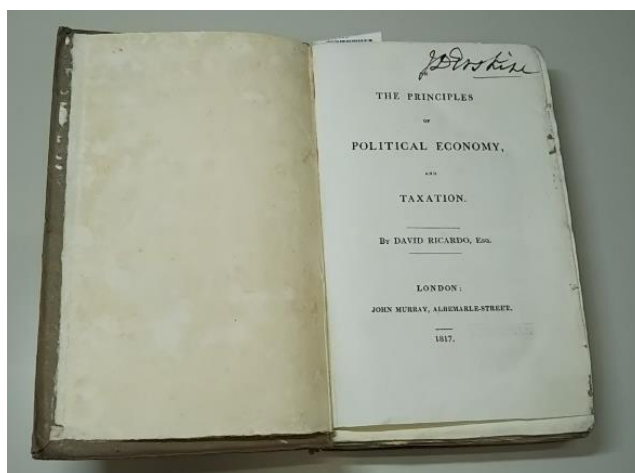
（初出「神奈川新聞」2012年8月27日付）

左から「経済学および課税の原理」

初版、2版、3版



初版のタイトルページ



本学図書館貴重資料 『経済学および課税の原理』